

共に学び共に支え共に創る三小の教育／全ての子供に、よりよい人生を切り拓く基盤を確実に築く三小の教育

# 学校だより

No. 8

青梅市立第三小学校  
校長 平崎一美

令和2年9月1日

青梅市大門 2-317 電話 0428-31-7266 学校HP <https://www.city.ome.tokyo.jp/school/daisan/-e/>

## 怪我の功名

副校長 森田 彰

夏休みが明けたある日のことです。用事があり保健室に行くと怪我をした子供が保健室にいました。転んで擦りむいた傷を手当てしてもらいながら、付き添ってくれた子が「大丈夫？」と気にかけてくれていました。聞けば、保健係だから、ということではなく、純粹に友達のことが気になって付き添いをしてきているということです。怪我をした子は痛い思いをしました。が、こういうときに付き添ってくれる、気にかけてくれる、自分の時間を割いて助けてくれる存在のありがたさに気づかされたのではないのでしょうか。

またある日のことです。職員室で仕事をしていると、5年生の子供たちが「職員室の中を見させてください」と訪ねてきました。国語の学習で学校のことをいろいろ調べているとのことでした。その子たちは友達と話し合いながら、実に楽しそうに調べていました。一人で粘り強くプリントに向かう学習も時には大切ですが、やはり学校で友達と一緒に学び合うことが子供たちにとって楽しいことなのだ、と思わされました。

今まで当たり前だと思っていた学校での学びの姿は、本当に価値あるものなのだ、と気づかされました。これも「コロナ」があったからこそ気づけたことなのかもしれません。まさに「怪我の功名」といえる出来事でした。

「怪我」という言葉は「体に傷を負うこと」という意味とともに「思いがけない事態」という意味があります。コロナウイルスという思いがけない事態、「怪我」に翻弄されている学校生活ですが、だからこそ気づかされることがあると思うのです。人の温かさ、人とともにあることの意味、そして自分の生きていくかけがえのない世界があること。不測の事態ともいえる昨今ですが、翻弄されるのではなく、知恵と勇気で立ち向かい乗り越えていくときです。未来に生きる子供たちの教育の指針として示された新しい学習指導要領でも「先行き不透明であるこの時代に必要なのは主体的に課題をとらえ、粘り強く思考し、よりよく生きていく力」と書かれています。昨日配布した文部科学大臣のメッセージも「今こそ自分の生き方を問い直すチャンスなのだよ」という気持ちを届けてくれているのでしよう。「怪我の功名」という諺に込められた困難に立ち向かうときの心の在り方、生きていくすべを今こそ思い起こしていきたいものです。

いまのようなときだからこそ、思いやりを持ち、支えあい、ひるむことなくともに歩んでいこう、というメッセージを私たちがしっかり受け止め、前向きに進んでいきましょう。それが大人の果たすべき役割です。